四国森林管理局 森林技術・支援センター

次世代に つなげる森林づくり

NO. 6

平成２６年８月

エリートツリー植栽による①下刈省力化試験効果の検証

森林技術・支援センター

★エリートツリーとは

森林総合研究所林木育種センターが約60年にわたって研究開発を進めてきた、いわゆる第二世代の精英樹です。

第一世代の精英樹の中でも成長・形質が一段と優れた木を選抜して、人工的にコントロールしながら交配・選抜を繰り返すことで作り出された特別優秀な素性を持った苗木のことです。

この優秀な苗木の大きな特徴の一つとして挙げられるのは、格段の成長の早さで、九州ではスギ苗で２年間に３ｍ成長した実績があるとのことです。成長が早いことで期待されることは、育林コストの削減です。

・早期の樹幹うっ閉が期待できることから、植栽密度を下げられること。

・造林費用の４割前後を占める下刈り作業回数を半分程度に軽減することにも期待できる。

加えて、シカの食害防止効果も期待できる。

・シカは口の高さ「ディアライン（シカ摂食線）といいます。」を超える木の先端の芽（頂芽）を食べることはできません。したがって、ディアラインに到達する期間を短くできることでシカ食害対策に有効であると考えられている。

・初期成長が早い苗木であり、下刈の刈高を高めにすることで、シカが寄りつき難くなることにも期待できる。

エリートツリー

・四国森林管理局森林技術・支援センターでは、平成26年度に関西森林管理署管内の矢筈谷山国有林と杉ノ熊山国有林において、エリートツリーを植栽した造林地の安芸森林管理署と高知中部森林管理署の試験地を設定し、下刈りの省力化試験を実施することにより、食害対策に有効性を検証していくことにしています。

安芸森林管理署
【矢筈谷山国有林試験地概要】
面積：0.59ha
標高：400～530m
方位：南
傾斜：20℃～40℃

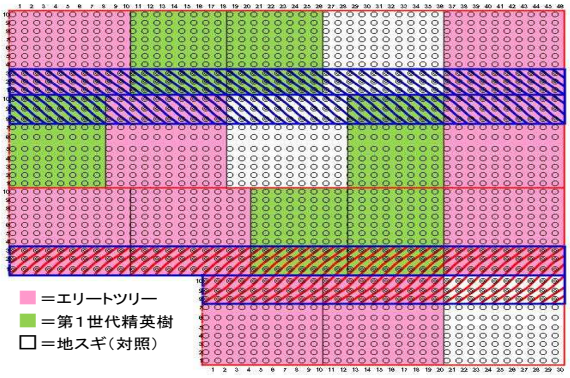
高知中部森林管理署
【杉ノ熊山国有林試験地概要】
面積：0.56ha
標高：680～1,050m
方位：北西
傾斜：20℃～45℃

なお、造林地全体にはシカ防護ネットを施行しています。

★左図で、ピンクがエリートツリー、白ツリーが対照用緑が第一世代精英樹、スギです。

そして、青い線で囲った部所が初期下の刈箇所、赤の斜線部分が無下刈部分、青の斜線部分が一回下刈りを行う部分、通常の下刈りを行う部分を他の部分とし、比較試験をすることにしています。

エリートツリーの実施することで、シカ食害対策に優れた成長が期待できるかについて検証することにしています。



斜線部分が下刈り省略箇所

雑学

「春と夏2回食べれる山菜」

ウドの花

①春のウドは、葉や茎を天ぷら・味噌和えなどにして美味しく食べられます。

②夏のウドは、花を天ぷらにして食べることができ、酒、ビールの「つまみ」に最適です。